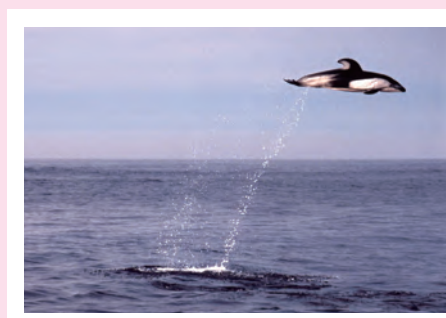


地道な調査・研究から 見えてくる環境変化

入門助成を経て、一般助成で2年目を迎えた「さかまた組」。代表の笹森琴絵さんは調査・研究活動の基本方針を、こう説明する。

「私たちの活動に対して、『同じことの繰り返し。何か新しい取り組みはないの?』と聞かれることがありますが、でも、地道な活動があつて初めて分かることも多いのです。」

調査活動では、調査船に乗り、シャチやクジラが現れた海の緯度経度、水深、水温、種別、頭数、群れの構成、行動(子育て、餌取り、求愛行動)、発見方法(体、噴気、鳥山、鳥が群れている)を記録します。そういったデータが蓄積されると、彼らがその海域に来る時期が分かってきます。釧路沖では、秋口と春口にイカやサ



噴火湾でのカマイルカのジャンプ

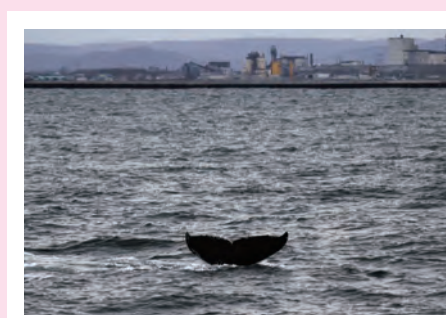
ンマ、イワシが取れます。イルカやクジラはそれを狙って集まり、さらにシャチもやって来ます。つまり、毎年春と秋には餌取りのために、来るんですね。

そして、その種を継続的に観察することで、海域の変化も明らかになってきます。種が現れる時期が前倒しになったり遅くなったり、

シャチが来る、それが海の豊かさの証です。

生態系ピラミッドの 頂点に立つシャチに注目

では、なぜシャチに注目するのか? 「イルカやクジラ、さらにその上のシャチは海の生態系ピラミッドのトップにいます。生態系ピラミッドは、下から順に植物プランクトン、動物プランクトン、小さな魚、大きな魚、イルカやアザラシ、シャチという



釧路港からわずか1kmほどの海域に現れたザトウクジラ



海面に体を打ち付けるようにブリーチ(ジャンプ)するシャチ

ように形成されています。トップにいる生き物は、それより下の生き物がいないれば存在できないので、海洋環境の指標となるのです。つまり、生態系の頂点に立つシャチが多ければ、その下にいる生物の裾野も広いことを意味します。プランクトンやコンブ、大きめの魚といったピラミッドの土台が小さくなれば、人間はそ

調査・研究の成果を 環境教育に生かす

の海から何も得られなくなります。『なぜ、シャチのために海を守るのか?』と言う人もいますが、シャチが生きられなければ、人間も危ういのです」

北の海に鯨類が多いということは、それだけ生物多様性が保たれている証となる。

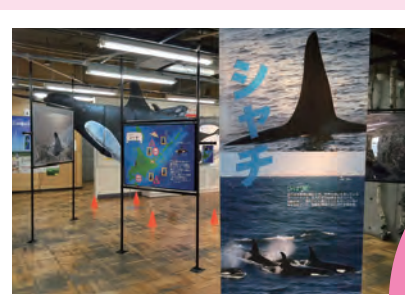
「さかまた組」は、地球環境基金の助成や地元行政などとの連携で、地域住民を対象にどのような環境教育活動を実施しているのか?

「市民向けの調査同行型体験ツアーを行っています。ただ見に行くだけではなく、乗船の前後に必ず釧路沖の海洋システムや来遊する生物に関するレクチャーを行います。このツアー、最近では非常に人気があり、定員40名のところに260名もの応募があるんです。船のキャパシティや安全確保、調査目的であることから、これ以上人数や回数を増やせないのが悩ましいところですが、乗れなかった人には講演会や写真展、動画など、いろいろな入り口を用意して釧路沖の豊かさをアピールしています。北の海に興味を持っていたきたいし、この海は地元の宝物だと誇りに思ってもらいたいです」

「さかまた組」の環境教育には、科



「釧路フィッシャーマンズワーFEGG」でのレクチャーの様子



「釧路フィッシャーマンズワーFMOO」で開催された展示会

助成団体レポート
聞いてきました!
「海洋生態系調査」
の現場

噴火湾(内浦湾)

釧路

室蘭

世界に生息する鯨類は80~90種。このうちの約25%・20種ほどが北海道沿岸で観察できるという。室蘭と釧路を拠点に、シャチなど海洋生物の調査と環境教育活動を展開する「Orca.orgさかまた組」の代表・笹森琴絵さんに活動内容を伺った。

※「さかまた」とは、漁師言葉でシャチのこと。

海の環境指標・シャチを守る!

「釧路シャチカタログ」より



シャチの背びれの形や欠け、背中の灰白色の模様(サドルパッチ)は、個体によりそれぞれ異なるため、識別の材料となっている。「さかまた組」では、長年の観察記録を基に「釧路シャチカタログ」としてデータベース化している。

取材協力
Orca.orgさかまた組
<http://homepage3.nifty.com/sakamata/>
*本ページに掲載した写真は、全て笹森琴絵さんからご提供いただきました。